
セツと姉

ツキミサト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

セツと姉

【Zコード】

N7417D

【作者名】

ツキミサト

【あらすじ】

学園では才色兼備で通っている姉の実態を知る者は少ない。そんな姉の実態を知っている弟であるセツと姉の話。

学園では才色兼備で通っている姉の実態を知る者は少ない。なにせ、家で一人きりになると毎度のように突拍子もないことを唐突に言い出すのだ。

まあ、2人して黙々と過ごしすのも味気ないから、それもいいと思つていたが、

「セツ、驚かないでね。子供はね、コウノトリに運ばれてくるんじゃないのよ！」

などと、真顔でのたまわつた時にはどつ反応すればいいのか思いつかなかつた。

「姉さん……」

なにやら突つ込むべきなのかわからず、なんとかそれだけを呟く。だが、姉はそれを別の解釈に受け取つたらしい。

「だからね、わたし達は本当の姉弟じゃないの」

そんな事実にショックを受け驚いているという解釈に……。

残念ながら、それは違つ。当時3歳だった自分には本当の両親の記憶も、

色々あつた末に引き取られた記憶も、きちんとあるのだ。

（ふつふつふ、ナコ。今日はコウノトリさんが弟をプレゼントしてくれたわよー）

そういえば叔母さんはそんなことについて姉さんに自分を紹介したつけ。

「大丈夫よ、セツ。わたしはそんなこと気にしないし」

（むしろ、本当の姉弟じゃないから結婚だつて……。ぐふふふふなどと、姉が不気味な笑いと妄想を繰り広げるのはいつものことと半ば諦めながら、

後半の呟きが聞こえなければ良かつたのにな、と嘆息する。

しかし、まあ、なんといつか…。

「『ウノトリをいまだに信じていたんだ』

その言葉で、姉はやつと自分の勘違いに気づいたらしく。

ショックを受けているのはなく、呆れているという事実に。

「セツは知っていたのね、いじわる」

「いや、普通知ってるだろ」

「もうやつて、自分の常識を世間に当てはめるなつて教えてきたわよね？」

「いや、それ姉さんのほう」

ときどき、姉は無茶を言つ。

だいたい、『ウノトリを世間一般の常識にするのは無理がある。

「てか、学校でも習つただろ」

「日本の学校なんて外面とテストだけでビリでもなるわよ」

そのあたりは詳しく述べて「そのあたりは詳しく述べて」という意味だ?」

それになんとなく恥ずかしかつたしとか言い訳つぽく告げる。

「わたしは『ウノトリ』って愛し合つてる2人がキスしたり、抱き合つたりすると赤ちゃんを運んでくると思つていたの」

頭が痛くなつてきた。なんで、こんな人が優秀なんだろ?」

「だからね、そういうことをするのはセツが働き出すまでつて我慢してたの」

「ええと、そのまま一生我慢していくとありがたい」

そんなことをいながら抱き合つこうとしてくる姉をかわして、

本心からもう言いため息をついた。

(後書き)

このたびは、最後まで読んでいただきありがとうございました。少しずつでも書いていきたいと思つていますので、よろしくおねがいします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7417d/>

セツと姉

2011年10月4日20時07分発行